

(学年) 第2学年, (教科・科目) 社会

一斉・協働学習

(単元) 開国と近代日本の歩み

(本時のねらい)

- ・ 明治新政府の方針や諸改革の内容, 中央集権国家の体制が確立していったことを理解させる。
- ・ 明治維新による社会の変化, 特に身分制度の廃止の意義と問題点について考察し, 表現させる。

(ICT活用法)

本時においてICTを活用したのは以下の2点である。1点目は, 前回までの歴史の流れや, 江戸時代を中心に学習した主な内容を, プレゼンテーションソフトを使って穴抜きで電子黒板に掲示し, 生徒に答えさせながら確認する場面である。地理的分野から歴史的分野の学習への移行時には, 生徒の記憶を呼び起こすためにもこの振り返りは大切で, 今後の授業の流れに重要な意味を持つと考えられる。従来であれば, ワークシートや板書により時間をかけて確認していたが, 電子黒板を活用することで江戸時代全般の主要な内容を瞬時に提示でき, 多くの記憶を引き出すとともに, 確認時間の短縮にもつながった。

2点目は, 教師用デジタル教科書の活用である。本校の1年生・2年生の社会科の授業では, 従来の板書を中心とした一斉学習のスタイルを基本としている。そこに教師用デジタル教科書をどう活用していくかを常に考慮し, 授業を組み立てている。特に意識しているのは, 指導者の話を聞くとき, 板書からノートを書き写すとき, 課題を考えるとき, 話し合うときなど今何をしているときかをわからせ, 集中できるよう生徒に促している。その活動を支援するために電子黒板を使い, 資料(人物の写真・イラスト・表・グラフ・文章・動画)等を提示している。本時は, 「五箇条の御誓文」や「五榜の掲示」の文言を提示し, 班で現代語訳させてみた。その中で, 明治新政府が江戸時代の幕藩体制とは違う天皇を中心とする中央集権国家の国づくりを求めたことへの理解も進んだ。また, 当時の人々の身分の割合を示したグラフを提示し, 江戸時代と明治時代のそれぞれの割合を比較し, その変化から社会の様子を考えさせた。従来であれば比較の提示は難しかったが, 瞬時に生徒に提示でき, 生徒の理解が進められたと思われる。

(本時の展開)

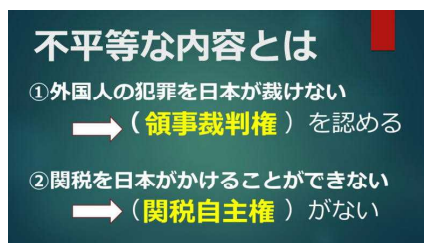
時間	学習活動	指導事項	ICT活用方法
導入 10分	・ 前回までの歴史の流れを振り返る。	・ 江戸時代全般の主な事項を確認する。	・ プレゼンテーションソフトで年代順に流れを提示する。
	「本時のめあて」を確認する。		
	明治維新によって, 社会はどのように変化していったのか		

展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・新政府の方針の内容を現代語訳する。 ・江戸時代とどう違うのか考察する。 ・藩から県へ変わっていく様子を知る。 ・四民平等のねらいや社会の変化を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「五箇条の御誓文」と「五榜の掲示」を用い、江戸時代との違いをもとに近代国家建設への始まりを理解させる。 ・版籍奉還と廃藩置県の内容を説明する。 ・身分制度の廃止の意義と問題点について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師用デジタル教科書の条文や方針が出された当時の様子を画像などで提示する。 ・プレゼンテーションソフトにより幕府と新政府の仕組みを提示する。 ・身分ごとの人々の割合を示したグラフを提示する。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書を使い本時の内容確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板に、本時のねらいを提示しておく。

(授業の様子)



前回までの復習



プレゼンテーションの一例



条文の説明

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

従来の授業では、教師の主観で内容の指導が進められることが多く、教師自身も生徒たちが習得すべき内容や求める理解度に少し不安な面も多かった。電子黒板やプレゼンテーションソフトを活用することによって、振り返り学習では記憶した内容の呼び興しや確認がスムーズに行われるようになった。また、教師用デジタル教科書での資料の提示や動画での説明の視聴などからは、授業内容を視覚や聴覚により、深く広く伝えることができ、授業者として手応えを感じた。今後は、その成果（生徒の理解度・習得度）を数値化したり、生徒に感想を聞くなどして、「実感できる評価の方法」を検討していかなければと考えている。また、今回作成した教材の内容の精選や見やすさも考慮し、ICTの活用場面を今以上効果的にできるよう改善・改良していく必要がある。